おはなし散歩道

代官淵のゆうれい

八王子市　池田美絵

川口川は中流域で大きく蛇行し、代官淵と呼ばれる深い淵をつくる。東京がまだ、江戸と呼ばれていたころの話だ。商家の若旦那である章介は妙な噂を聞く。淵に立ち入ろうとすると、見知らぬ女が現れて引き留めるという。この地で大久保長安の一族が処刑されたことから、その霊ではないかと人びとは噂しあっていた。

だが幽霊など見たことがない章介は、皆が怖がっていることにじれて、ある日、「俺が正体を突き止めてやる」と、啖呵をきってしまう。

――その日は、明け方から雨が降りつづく薄暗い日だった。「ちぇっ、約束なんかしなければよかった」。みなの前で強気な態度をとったものの、ゆうれい探しに正直、腰が引けてきた。そのとき、背後から袖を引くものがある。

「章介さん、ここに来てはいけません」。「でた……」。ぞっとして章介がおそるおそるふりかえると、年のころは三十あまり。切れ長の目の女がじっと見つめているではないか。

「何者だ。なんで俺の名を知ってんだ」。気丈にいい放ったつもりだが、語尾がふるえる。

だが女は、章介の問いかけには応えず、「ここへ来てはだめ」とくりかえすだけだった。しだいに雨足が強くなり、淵の水かさも増してきたが、章介は女の正体を突き止めなければ帰れない。しばしの問答の末、女が「じつは、かわいいぼうやを……」といいかけたときだった。淵の水があふれだして章介は女ともども流された。

「これにつかまって！」。女は水にのまれながらも木っ端を押しやった。章介は夢中でその木っ端につかまり、いのちからがら浅瀬にたどりついた。女の姿を探したが、うねる川面が見えるだけでどこにも女の姿はない。「まるで、俺を助けたみたいじゃないか」。章介はためいきをついた。

町に戻った章介はこの出来事を和尚に話す。自分の名前を知っているのはなぜかと。

「お前さん、心当たりはないのかい。ぼうやのことと言ったんだろ」。「そういえば、少し前に川の水があふれたとき、親子のきつねを助けたことがありました。でも、子ギツネは水をたくさん飲んでいて死んだんです」。和尚さんは、合点がいったようだった。

「女はそのキツネじゃよ」。子をなくす悲しみは自分だけでたくさんだと、淵に人が近づかないようにしていたにちがいないと和尚は話してくれた。

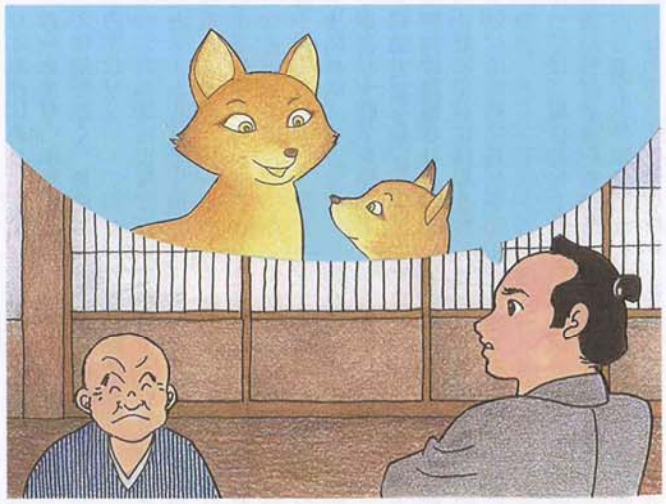
「和尚さま、いっしょに淵まで行ってくださいませんか。キツネの子どもを供養してやりたいんです」。「うむ、わしもそう思っていたところじゃ」

和尚と章介が代官淵に行くと、草葉のかげで一匹のキツネが死んでいた。

「俺を助けたあとに……」。

章介は声をつまらせた。そののち、章介は親子ギツネの供養塔を建てるとねんごろに供養したということだ。

（さし絵・小出　茂）



未来の「語り部」たちのために

とんとんむかし出版記念おはなし会

八王子の昔話を語り継ぐ「語り部」の皆様

このたび、「高尾山とんとん昔語り部の会（吉田美江会長）」が、八王子に残されている昔話を収録した、『とんとんむかし　―語ろう！八王子のむかし話―』を出版され、七月十八日に「とんとんむかし出版記念おはなし会」が開催されました。

この語り部の会は、民俗学の研究をしていた児童文学者の、故・菊地正先生が平成十四年に高尾山麓の不動院で結成されました。

菊地先生がこの会を設立されたのは、八王子には数多くの昔話や伝説が残されていますが、そうしたお話を語り継ぐ、「語り部」がいなくなってしまうことを危惧されていたからということです。

語り部の会には、現在では男女約二十名が所属しており、八王子市内の保育園や小学校などで、昔話を語っております。

そうした活動を通じて、昔話の語りを聞いた人達から、「語って頂いた昔話が書かれている本があるのでしょうか？」という声を聞くことが増えるようになったそうです。

本来であれば、昔話は口伝により語り継がれていくものでありますが、近年では、昔話や伝説を聞く機会が減少している事も事実です。本を通して「語り」に触れられるように、また、昔話を通して親子の触れ合いを深めてほしいとの思いから、この本が出版されることとなりました。収録したお話は菊地先生が採集した千話以上もの昔話の中から、五十七話が選ばれました。

出版記念おはなし会の当日には、八王子労政会館に約八十人の招待者が集まり、語り部の会の人達により、「子授け稲荷」や「天狗笑い」等の昔話が語られました。

吉田会長にお話を聞きますと、この本を編集するに当たり、八王子の昔話は「武州弁」で伝承されてきたことから、その方言の言葉遣いで書くことにより、「武州語り」が出来るようにしたそうです。この本に触れることで、新しく「語り部」になろうとする人が一人でも生まれて頂ければ、と話されておりました。

書籍紹介

とんとんむかし
―語ろう！八王子のむかし話―

編集　高尾山とんとんむかし語り部の会
揺籃社　1,200円（税別）